

FIRST STEP

～合格への見通しをつくるスタート号～

はじめに

その「一歩」を、確かな自信に

家庭科技術検定（保育）は、単なる手先の器用さを競うものではありません。「子どもにどう関わるか」を考え抜き、それを具体的に表現する力を問う検定です。

まずは自分たちの頑張りや数字を数字で振り返り、目標に向かって、今日からまた一つひとつ始めていきましょう。

R7 検定結果（兵庫県比較）

		3級	2級	準1級	1級
音楽	県合格者数	457	139	67	38
	県合格率	97	90	79	64
	合格者数	15	19	5	2
	合格率	100	91	100	67
造形	県合格者数	738	330	57	15
	県合格率	94	90	62	50
	合格者数	24	16	2	0
	合格率	96	100	100	0
言語	県合格者数	623	291	59	20
	県合格率	99	96	74	66
	合格者数	15	16	5	0
	合格率	95	100	100	0
看護	県合格者数	442	197	65	31
	県合格率	97	96	83	67
	合格者数	19	16	5	2
	合格率	100	100	100	100
合計	合格者数	73	67	17	4
	合格率	94	97	100	50
県級合格者数		358	86	37	9
級合格者数		17	14	0	0

※「合計」欄について：音楽・造形・言語・看護の4種目の合格実績を合算した「延べ人数」です。

※「級合格」について：4種目すべてに合格し、その級を完全に取得した人数を指します。

令和7年度 検定結果：兵庫県比較からの総括

昨年度の本校の結果を兵庫県全体の平均値と比較すると、本校の「技術の習熟度」の高さが明確に証明されました。

準1級の圧倒的な実績

県全体の合格率（音楽 79%・造形 62%・言語 74%・看護 83%）に対し、本校は全4種目すべてで100%合格という驚異的な結果を残しました。

家庭看護の「県内トップレベル」

県全体の1級合格率が67%に留まる中、本校は3級～1級の全受検者が合格（合格率100%）を達成しました。

1級の壁と課題

最難関の1級は合計合格率50%となり、県平均を下回る種目もありました。特に造形・言語において、専門知識を次なるレベルまで高めることが今年度の課題です。

全体概況

延べ172名が受検し、161名が合格。全体の合格率は94%と非常に高い水準を維持しています。日々の地道な積み重ねが、県平均を大きく上回る「確かな力」へとつながっています。

保育検定で目指すものとは

検定はただの合否判定ではなく、保育者としての「実践的な態度」を育てるためのものです。練習を通して、以下のような「自然にできる」状態を目指します。

- ・ **思考力・段取り力**：「どうすれば喜ぶか」を考え、スムーズに動けるか
- ・ **表現力・正確性**：温かい声・表情と、安全で正しい技術が身についているか
- ・ **安定した実践力**：いつでも「自然に・当たり前」に動けるか

合格する人の共通点

- ・ **継続**：短時間でも毎日練習に触れている
- ・ **想像**：常に「子どもの立場」で考えている
- ・ **改善**：失敗を振り返り、修正を繰り返している

【先輩の一言】

○「緊張したけど、練習した分だけは体が勝手に動いてくれた！」

今すぐやること（スタート・チェック）

- 今年度の課題内容を確認した
- まずは1回、通してやってみた（声かけ・動き）
- 自分の苦手なポイントをメモした
- 明日練習するポイントを1つ決めた

あの合格者も
やっていた！

基礎編！ 分野別ワンポイント

～合格への道～

【音楽】

☑「止まらない」が最優先

多少のミスよりも、リズムを止めない「全体の流れ」が重視される。

☑一定のリズムをキープする

本番の緊張下でも、早まったり遅れたりせず、心地よいテンポを保とう。

【造形】

☑すべては構図を決めてから

テーマに沿った配置（レイアウト）を先に決めると、迷わず進められ大幅な時短になる。

☑全体のバランスを意識

貼り付けを始める前に、画面全体の色のバランスや配置を確認しよう。

【言語】

☑子どもに届く「生きた声」で

ただ読むのではなく、目の前の子供たち一人ひとりに語りかけるイメージで声を出そう。

☑目線を上げ、心を通わせる

文字ばかり追わず、子どもたち全員の顔を見るつもりで、しっかりと顔を上げよう。

【看護】

☑手順の意味を理解する

「なぜこの角度で持つのか」など、意味を理解すると技術がスムーズになる。

☑一連の流れで動く

手順を思い出しながらではなく、体が覚えるまで練習し、流れるような動きを目指そう。

※上位級は筆記も難化します。早めの対策を！

⚠ よくあるつまづき（合格へのセルフチェック）

- 声が小さい → 目の前の子どもに届ける意識を
- 止まってしまう → ミスを気にせず「流れ」を優先
- 暗記するだけ → 心を通わせる「伝える」意識へ

【先輩の一言】

〇「完璧じゃなくていい。まずは、何度もやってみることが大事！」

📖 特集：音楽・リズム表現技術を極める！

合否の分かれ道は「止まらずに弾ききれるか」

昨年度、準1級や1級に合格した先輩たちが最も高く評価されたのは「音楽・リズム表現」でした。審査員の先生方も、「途中で止まることなく、スムーズに表現できていて素晴らしい！」と絶賛。指先の動きや歌声から、熱心な反復練習の成果が明確に伝わってきたそうです。「考えなくても指が勝手に動く」レベルまで暗譜し、練習を積み重ねた努力の結晶ですね。

一方で、残念ながらあと一歩で合格に届かなかったケースを見てみると、実技はクリアしていても、筆記試験で苦戦してしまったという人が多かったようです。

「実技は得意だけど、筆記は後回し」になっていませんか？ 音楽の技術と同じように、筆記の知識も「なんとなく」ではなく、「確かな知識」として定着させる必要があります。実技の練習と合わせて、少しずつ筆記の準備も進めていくこと。それが今年度の合格を確実にするための、一番の近道になります。

💡 今年度への戦略：練習課題を「自分の味方にしよう」

音楽や造形は、事前に課題が発表されます。これは、いわば「答え」を先にもらっているようなもの。だからこそ、日々の準備の差が大きな差となり、そのまま合否を分けます。合格を目指して、今のうちから課題とじっくり向き合い、自分なりの「万全の準備」を整えていきましょう。

☑ 担当教諭より ～その「一歩」を、確かな力に変えるために～

検定の合否は、「積み重ね」がすべて。

今日踏み出したその一歩を、保育者としての大きな自信に変えていきましょう。

📺 編集後記

- 今日の一步を踏み出そう
- 行動した人から、未来は変わる！

お知らせと注釈

- ・本文の保育検定各種目は「音楽」「造形」「言語」「看護」と略記しています。
- ・一部画像（「一歩」を象徴するシルエット等）は Google AI により生成したものを加工して使用しています。